

国語科 対面学習指導 実践報告

1. 学年と単元 2年「メディアとの上手な付き合い方～デマを捕まえろ～」

2. 単元について

教科書教材「メディアとの上手な付き合い方」(池上彰)からメディアリテラシーについての学習活動につなげていく単元である。様々なメディア(新聞・テレビ・インターネット)等の特性を理解し、実際にコロナ禍で噴出したデマやフェイクニュース、ミスリードなどの事例を調べていく。まとめとして「メディアとの付き合い方三ヶ条」を作成する。最後に元新聞記者の講話に触れ、多面的な観点からメディアからの情報をどのように受け止め、対処していけばよいか指針を得ることをねらいとした。

本単元のカリキュラム・デザインとして、教科書教材・ウェブによる情報収集・教育メディア(NHK for School)活用・ゲスト講師の講話など多様な教材編成を工夫した。また新型コロナ禍下で交流が難しい教室環境のもと、協同でのポスター制作やコメント共有、Google クラスルームによる課題配信と回収、リモートでのゲストティーチャーの講話収録など ICT を活用して様々な学び合いができるようにした。

3. 本時・本単元の目標／評価規準

(1)本単元の目標

- メディアの特性を理解し、情報を吟味するための視点を得ることができる。[知・技(2)中3イ]
- メディアとの付き合い方について情報収集、整理して適切な情報を得て、考察することができる。
[思・判・表 C中2イ]
- メディアとの付き合い方について、学習内容を生かして今後の指針を得ようとするすることができる。
[学びに向かう力・人間性]

(2)本単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
複数のメディアの特性をつかみ、それぞれのメディア活用のメリットやデメリットについて整理している。	デマについて確かな情報源に基づいて調査し、デマを検証してその影響をまとめ、今後活かすべき教訓をまとめている。	メディアとの付き合い方について、その特性を踏まえて、情報を適切に吟味するための具体的な手立てを考え、今後活かそうとしている。

4. 生徒の学習の実際

(1)授業の流れ

- 1時間目：通読し、ドキュメントに感想をコメントで書き込んで共有する。
内容確認小テスト(Google フォーム)を行う。
- 2時間目：メディアごとの特性をスプレッドシートに整理する(テレビ・新聞・インターネット)
- 3～5時間目：デマ・フェイクニュース・ミスリードについて4人グループに分かれて分析する。
観点①デマの概要・②ファクトチェック・③どんな影響を与えたか・④デマからの教訓
- 6時間目：「メディアリテラシー三ヶ条」とその解説を考える
- 7時間目：ゲストティーチャーによる特別授業
玉川大学教授中西茂氏の「メディアと上手に付き合うために」三ヶ条
4クラスの生徒の「3か条についての講評」を読んだコメントと授業者との対話

6時間目 「メディアとのつきあい方三ヶ条」と解説を書く

[illegible]

- 情報を鵜呑みにしない
- メディアの特性を理解する
- 信頼できる情報源のものを使う
- 間違った情報を拡散させない
- 人を傷つけるような発信はしない
- 自分の頭で考える
- メディアは印象操作していることを疑う

7時間目 中西先生のリモート授業から

1 情報を鵜呑みにしない 2 情報源・発信源を確かめる 3 複数のメディアで比較する
その他、中西先生が生徒に伝えたこと

- 「情報を鵜呑みにしない」で、そこからどう行動するかが大切。
- 「いつ発信したか」が曖昧な情報は当てにならない。
- 編集とミスリード、印象操作は同じものなのか？ 境界線はわかりにくいと同じではない。
- メディアは媒体だから、事実をそのまま伝えるものではない。
- 発信には責任が伴う。ネットで調べたものは必ず裏取りする
- 不確かな情報を伝えることもあるが、断定できない場合は語尾を濁らせる。

[illegible]

- 編集と印象操作は違うということ。
- 演出のつもりでやっても、それが視聴者に伝わらないと印象操作になってしまう。
- 情報を発信する側の目線で考えることができた。
- 発信する情報は必ずしも事実とは限らない。
- メディア情報を鵜呑みにしてはいけなく、全てを疑うのは違う。自分でも調べ、冷静に捉えることが大切だ。

※情報・メディア・印象・操作が頻出

ICTを活用することで、コロナ禍下でもグループ活動をするなど対話的な学びを進めることができた。ゲストティーチャーの講義動画を事前に収録し、授業内で視聴したが、生徒は真剣に話を聞く姿が見られた。学習の文脈にしっかり位置づけると、バーチャルな講演動画であっても生徒はしっかり学ぶことができることがわかった。生徒がこの授業で最も印象に残ったことは、「事実はあるのままだに伝えられるものではない」ということであった。デマを調べることで「編集＝印象操作＝悪」という思い込みが生まれたが、発信者の立場からの言葉を聞くことで、あらゆるメディアで情報を伝えるためには編集は不可欠なものであることの理解が深まった。また、発信者側が情報操作にならないように慎重に事実を伝えようとしていることを学べたのも良かった。